

水稻の高温障害に備えましょう！

- 白未熟粒は、出穂後、高温の場合に発生しやすくなります。
- 気象情報などに注意し、高温障害を回避するための技術対策をお願いします。

※R2年産は高温障害による未熟粒の発生により品質が大きく低下しました。

高温時の技術対策

○施肥

- ・葉色が薄い場合は穂肥を施用し、稲体の活力を維持します。

○水管理

- ・かけ流し及び夜間かん水等により地温低下を図ります。
- ・早期落水は、未熟粒や屑米、胴割れ米、茶米の増加につながるため、出穂後30日頃を目安にできるだけ落水を遅らせます。

○適期収穫

- ・刈り遅れは、胴割れ米や茶米等が増加して玄米品質低下の原因となります。

○病虫害防除

- ・高温年は病虫害が発生しやすく、本年度は、斑点米カメムシ類や紋枯病等の発生がやや多い状況です。予察情報等を参考に、適期防除を行いましょう。



<高温で発生した白未熟粒>

(参考)岡山県におけるヒノヒカリ及びきぬむすめの一等米比率の推移

年産	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
ヒノヒカリ	77.8	85.6	82.6	78.8	54.6	30.6	79.6
きぬむすめ	85.0	79.9	84.0	82.6	80.7	63.3	75.2

(単位：％、農林水産省農産物検査結果)

問い合わせ

岡山県地域稲作戦略推進会議（事務局：岡山県農林水産部農産課）
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 TEL 086-226-7424
岡山米ホームページ <https://www.pref.okayama.jp/page/detail-16018.html>